

年間授業時数を必要最小限に

ポトムアップで活性化、英知を結集し余裕時間を生み出す！

放課後の時間や空き時数の確保

授業準備に追われ、勤務時間の割り振り変更も活用されず在校時間も長いなど負のスパイラルに陥っていた。



在校時間の削減など効果を実感でき、教職員が活発に発言するなど活気が戻った。放課後の職員室は笑顔が絶えない。

【効果】

- 空き時間確保、在校時間削減
- 授業の効率化
- 教職員の意識向上
- 活気、働きがいの数値上昇
- 年休消化率の上昇

時間	月	火	水	木	金	特別日
8:30~8:40	朝自習	集会	朝読書	パワーアップ	チャレンジ	
8:40~8:50	健康観察・朝の会					
1時間目 8:50~9:35	総合	社会	算数	体育 アリーナ	算数	
2時間目 9:40~10:25	国語	総合	音楽	理科	外国語	
10:25~10:45	20分休み					
3時間目 10:45~11:30	理科 音楽	国語	図工 理科	国語	体育 校庭	
4時間目 11:35~12:20	学活	算数	図工	算数	国語	
12:20~13:05	給食					
13:05~13:25	そらうし					
13:25~13:45	昼休み					
5時間目 13:45~14:30	算数	理科	国語	道徳	チャレンジ	
6時間目 14:35~15:20	体育 校庭	国語	社会			

・令和5年度3年2組時間割

実質、空き時間となり、教材研究等の時間として使える。また、遅れている教科の授業を行うこともできる。

実施までのプロセス

<下新倉小の取組①>

- ①学年共通の時間割、拡大チャレンジタイム(※)を週1時間設定
(※)児童自身が課題を決めて学習する時間(授業時数にカウントしない)
- ②学年教員1名が輪番で児童支援にあたり、他の教員は空き時間。
- ③授業に遅れが生じたときなど学年教員の総意で授業に戻すことも可。

<下新倉小の取組②>

- ①年間計画で6月以降月1回(年間9日)リモートの日を設定、保護者に周知する。
- ②児童は給食後下校、家庭でリモート授業を受ける。(高学年は1時間削減)
- ③午後3時に授業終了、以後NO会議。

他 取組多数



・リモート授業の様子

取組による効果

- ・6月の在校時間前年比9.5時間減(全教員平均)
- ・年間余剰時数7.8時間(全学年平均)